

1. 授業の概要(ねらい)

私たちは日々、様々な「メディア」から情報を受け取り、或いは自らも情報を発信しながら生活しています。これは、私たちが「メディア」を利用できるように法整備されているからです。しかし同時に、この法整備には「メディア」に対する規制も含まれています。本講義では、「メディア」をめぐる法について学びながら、「メディア」が社会に対して果たす役割や負っている責任について理解していきます。

本講義は、「憲法」の履修を終えていることを前提として進めていきます。履修生には、適宜憲法の講義や教科書に立ち返って学習することを推奨します。

本講義は教科書とレジュメに沿って進めていきますが、必要に応じて参考資料を参照するよう指示しますので、各自書店や図書館で入手してください。

2. 授業の到達目標

- 1) メディアをめぐる基本的な理念を理解すること
- 2) 私たちにとって身近であろう報道や通信といったメディアについて、どのような法律問題が生じており、どのような規制によって解決が図られているかを理解すること
- 3) 以上について、法律用語を使いつつ、自分の言葉で説明できるようになること
- 4) メディアの現代的な法律問題を学ぶことを通じ、メディア・リテラシーを身につけ、十分な判断能力をもってメディアを利用できる素養を身につけること

3. 成績評価の方法および基準

期末試験70%

平常点30%(小テストなど、予習・復習を行っていることを確認するための課題もここに含みます)

出席はとりません。授業中に教員から求められ発言をした場合には平常点の範囲内で加点します。他の履修生・教員への迷惑行為は減点の対象とします。

4. 教科書・参考文献

教科書

曾我部真裕、林秀弥、栗田昌裕 『情報法概説 第二版』 弘文堂(2019年)

参考文献

鈴木秀美、山田健太 『よくわかるメディア法 第二版』 ミネルヴァ書房(2019年)

長谷部恭男、山口いづ子、穴戸常寿 『メディア判例百選(第2版)』 有斐閣(2018年)

穴戸常寿 『新・判例ハンドブック情報法』 日本評論社(2018年)

5. 準備学修の内容

予習:教科書の該当箇所を読んでおく

復習:授業ノートと教科書、参考文献の該当箇所を再度読み、自分なりに授業内容をまとめる

6. その他履修上の注意事項

本講義は、「憲法」の履修を終えていることを前提として進めていきます。履修生には、適宜憲法の講義や教科書に立ち返って学習することを推奨します。

本講義は教科書とレジュメに沿って進めていきますが、必要に応じて参考資料を参照するよう指示しますので、各自書店や図書館で入手してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 メディアをめぐる現状と基礎概念
- 【第3回】 表現の自由①:表現の自由の意義と価値について
- 【第4回】 表現の自由②:表現の自由の保障内容について
- 【第5回】 表現の自由③:表現の自由の保障のあり方と限界について
- 【第6回】 取材・報道の自由①:報道の自由の意義と、国民の知る権利について
- 【第7回】 取材・報道の自由②:報道の自由と取材の自由との関係を捉えたうえで、取材の自由の意義と制約について
- 【第8回】 報道の担い手①:総論
- 【第9回】 報道の担い手②:法的規制
- 【第10回】 報道の担い手③:自主規制
- 【第11回】 放送の自由について
- 【第12回】 通信の秘密:通信の秘密と通信の自由の意味・内容について
- 【第13回】 通信法:郵便に関する法について
- 【第14回】 まとめ(オンライン)
- 【第15回】 試験と解説